

なめがたでキラリ輝く「ひと」

7月の山百合まつり期間中に行われたオカリナコンサートは、今年で13回目を迎えた。井上 山百合の里



矢野 恵子さん・野口 喜広さん

Profile

オカリナ奏者。オカリナアートJOY代表。平成17年に、埼玉県から移住。山百合まつりでは、期間中にオカリナコンサートを開催。里山に優しく響き渡る音色が来場者から好評を得ている。浜在住。

今年で第20回目を迎えた「ふさと山百合まつり」。期間中の週末、里山から優しい音と歌声が聞こえてきました。この音色を奏するのは、オカリナ奏者の野口喜広さんと矢野恵子さんご夫妻、そしてオカリナ教室の生徒さんたちです。演奏が始まると、来場者は静かに耳を傾けていました。

「オカリナは、英語で『sweet potato』(スイートポテト)と言います。形が、さつまいもに似ているでしょ

う。さつまいもの名産地、行方ともつながりがありますね」と、来場者を前に笑顔の野口さん。ぼつりと愛らしい形をしたオカリナから奏でられる音は、なぜあたたかく懐かしく感じるのでしょうか。

「オカリナという楽器は、自然のつながりの象徴だと思います。それは、『土(粘土)』からできているから。土は全ての生き物の原点で、生命の源ですね。さつまいももオカリナも、土の栄養を吸い上げて人の体にすーっと入っていく。人は、土の記憶を無意識に感じているのではないかな」

そして、オカリナは閉管楽器であり、こもった丸い音がします。この音こそが、母の胎内で聴いていた音そのものに近く、やすらぐのではと野口さんは考えています。

平成17年に行方市へ移住した野口さんと矢野さん。そのきっかけとなったのは、市内の古民家ギャラリーでの演奏会に招かれたことでした。霞ヶ浦を目前にして、「こんなに広々とした風景があるんだ！」という思いでいっぱいになったそうで

す。幼い頃から、「田舎に住んでみたい。特に水辺の里に憧れていた」という野口さん。偶然にも当時、地図で霞ヶ浦周辺をよく見ていたのです。

移住してからは、オカリナが持っている「自然と調和している」「全てのを包み込む」音と、「人」をつなぎたいと、自宅や公共施設でオカリナ教室を開いたり、各地のイベントで演奏活動をしたりしています。また、今年3月まで、玉造小学校オカリナクラブの非常勤講師を勤めました。

今のお二人には、この自然に囲まれた行方を、オカリナのイメージで全国に広めたいという夢があります。「二人で同じ方向を向いている。それがいい音を奏でるのではないかな」と話す野口さんの隣で、矢野さんは笑顔でうなずきます。

山百合まつりのオカリナコンサートで歌われている「山百合の里」というオリジナルソングは、里山のオーナーと協力して平成19年に完成したものです。今年も、野口さんのオカリナと矢野さんの歌声が、里山の風に乗って優しく響き渡りました。

スマホで読める！ 市報なめがた デジタルブック配信開始！

○ブラウザでもアプリでも、スマホやタブレットで読める
○7言語で読める
【日・英・中(簡体)・中(繁体)・韓・タイ・ポルトガル語】
○音声読み上げもできる ○文字サイズを調整できる

Delivering e-book in English
電子書籍以中文簡体字发布
電子書籍以中文繁體字發布
한국어전자전송중

ในระหว่างการจัดส่ง หนังสือดิจิทัล
Entregar e-book em Português

無料 FREE APP



▲このアイコンが目印

*ブラウザ版は音声読み上げには対応しておりません。音声読み上げには、無料アプリ(カタボケ)のインストールが必要です。

山百合の里とオカリナの音色をお楽しみください(昨年公開したものです)。→
http://www.city.namegata.ibaraki.jp/namegata_net_broadcaster.php?mode=detail&code=68



山百合の里 作詞・作曲 野口喜広

里山に吹く風に ゆれる山百合
ホタルブクロもノアザミも

里山に吹く風に ゆれる山百合
トンボもチョウチョもホタルも

昔 おじいちゃんが 植えた山百合
今は幾千万の山百合の里

里山に吹く風に ゆれる山百合
セミもカエルも里人も

みんなゆれる
みんなゆれる
みんなゆれる